

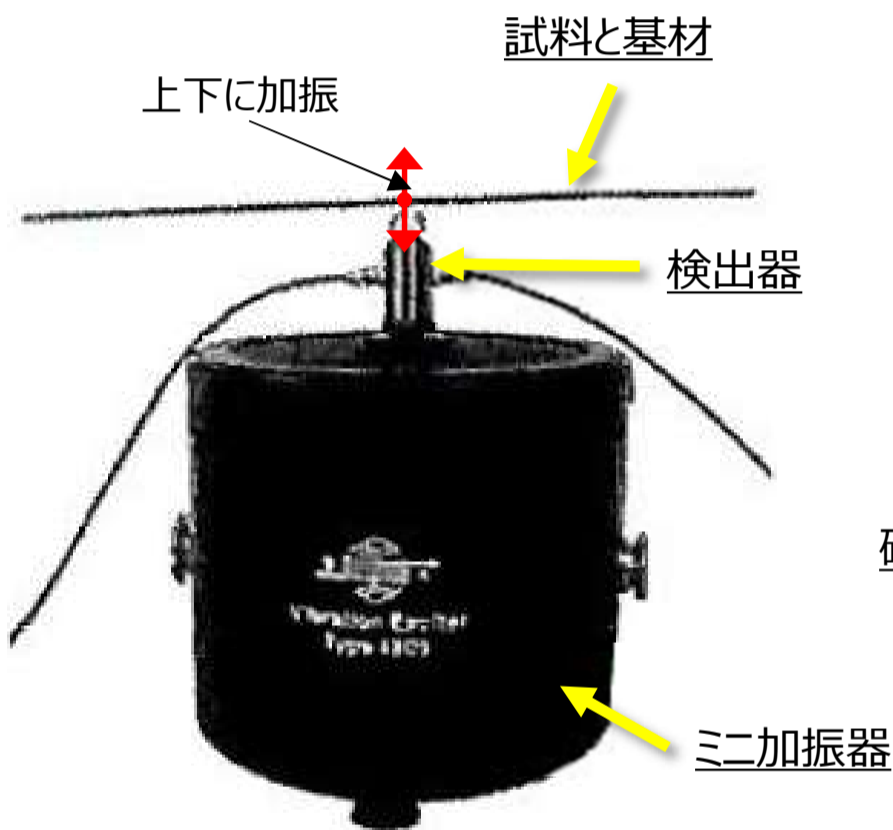
材料制振性測定装置



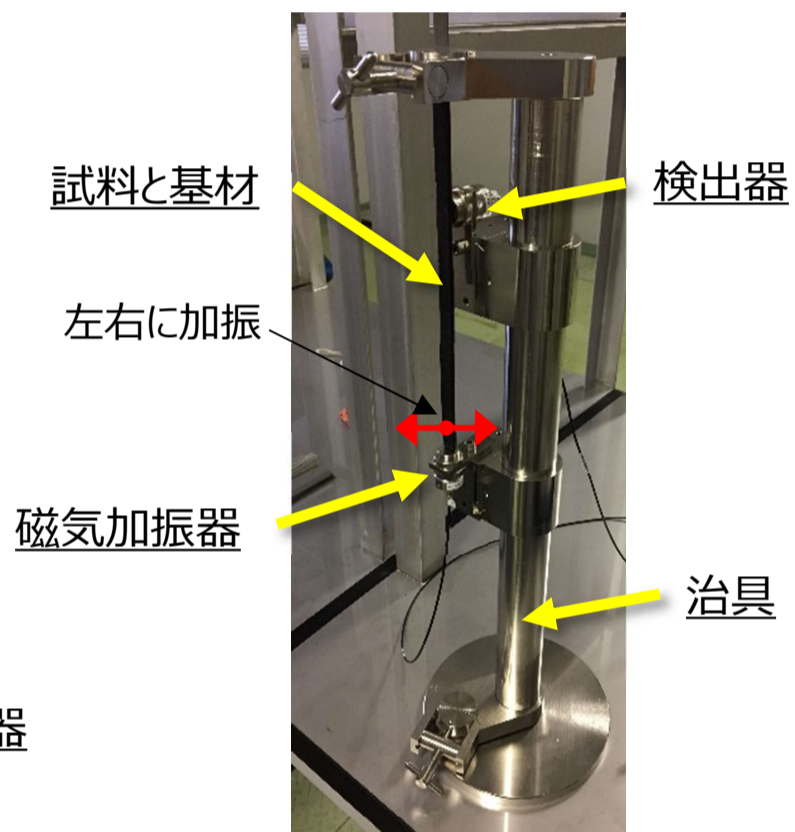
1. 装置の機能・特徴

多孔質材料の振動に対する減衰性である損失係数 η を測定する。
音エネルギーを材料中で減衰させる度合を調べるのに必要なデータとなる。
日本で一般的な中央加振法、日本や米国以外で一般的な片持ちはり法がある。
恒温恒湿槽内でも測定が可能で、温度依存性も調べることが出来る。

中央加振法



片持ちはり法



2. 主な仕様

	中央加振法	片持ちはり法
メーカー	Brüel & Kjær	Brüel & Kjær
型式	8001、4810、 2647 A等	ME3930、MM0002、MH- 4166等
測定方法	モビリティ：JIS G 0602 インピーダンス：JIS K 7391	モビリティ：JIS G 0602 JIS K 7391
測定環境温度	-196 ~ 260℃	-150 ~ 180℃
測定範囲	周波数 DC ~ 10kHz	-

※恒温恒湿槽：温度範囲 -40 ~ 180℃

※本装置は「内閣府 地方大学・地域産業創生交付金」事業により導入しました。